

# S I D R

## 滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第 4 巻第 29 号

第 29 週 ( 7 月 12 日 ~ 7 月 18 日 )

発行年月日:平成16年(2004年) 7月 23日

発 行 :滋賀県立衛生環境センター内

滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-3051 FAX 077-534-3936

### 1)全数報告の感染症(1類~5類)

感染症類型	疾患名	報告数 (29週)	累積報告数		平成15年報告数	
			滋賀 (29週)	全国 (29週)	滋賀	全国 <sup>(*)</sup>
1類感染症	報告なし	0	0	0	0	0
2類感染症	細菌性赤痢	1	6	254	7	459
	腸チフス	0	1	33	0	60
	パラチフス	0	0	42	0	38
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	2	7	1347	8	2635
4類感染症	E型肝炎 <sup>(*)</sup>	0	1	16		
	オウム病	0	1	29	1	44
	ツツガムシ病	0	0	94	2	380
	レジオネラ症	0	0	73	1	143
5類感染症	アメーバ赤痢	0	6	318	3	504
	ウイルス性肝炎	0	1	154	3	634
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	85	3	115
	ジアルジア症	0	1	43	0	99
	後天性免疫不全症候群	0	4	584	8	949
	梅毒	0	2	265	2	493
	破傷風	0	1	47	1	69
	急性脳炎	0	0	38	0	98

\*1:平成15年報告数の全国報告数は、滋賀県で報告された疾患を対象としています。

\*2: " 感染症法の改正前のためE型肝炎のみの集計はされていません。

### 2)定点把握の対象となる5類感染症

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)								前週との比較(定点当たり患者数)
	県	大津	草津	水口	八日市	彦根	長浜	今津	
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	0	
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
咽頭結膜熱	2.18	7.00	0.67	1.25	2.00	0.25	0	1.50	
A群溶連菌咽頭炎	0.52	0	1.17	0	0.80	0	0.40	2.00	
感染性胃腸炎	1.85	6.00	2.83	0	0.20	0.25	0	0	
水痘	0.45	0	0.50	0.25	0	1.75	0.60	0.50	
手足口病	0.52	2.00	0.33	0.25	0	0	0	0	
伝染性紅斑	0.03	0	0	0	0	0.25	0	0	
突発性発しん	0.76	1.57	0.83	0	0.40	0.75	0.80	0	
百日咳	0.03	0	0	0.25	0	0	0	0	
風しん	0	0	0	0	0	0	0	0	
ヘルパンギーナ	2.61	3.71	3.17	0.25	1.80	2.25	1.00	8.50	
麻しん	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性耳下腺炎	0.91	0.57	0.33	1.50	0	0.25	3.20	0.50	
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性角結膜炎	0.14	0	0	1.00	0	0	0	0	
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
無菌性髄膜炎	0.29	1.00	0	0	0	0	1.00	0	
マイコプラズマ肺炎	0.29	0	0	0	0	0	2.00	0	
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
成人麻しん	0	0	0	0	0	0	0	0	

全国集計などの詳細な集計結果は、国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ(<http://idsc.nih.gov/jp/index-j.html>)において公表されています。

0

2  
定点当たり患者数

4

### 3) 今週のトピックス

#### 咽頭結膜熱の発生は増加傾向持続 ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎の発生に地域的な偏り

定点把握の対象となる5類感染症の発生状況は、先週(7月5日～7月12日)の報告数より少し多くなっています。咽頭結膜熱、手足口病、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎等の発生は先週より増加し、水痘、風しん、マイコプラズマ肺炎等の発生は減少しています。また、A群溶連菌咽頭炎、突発性発しんおよび流行性角結膜炎については先週と同じ報告数となっています。

**咽頭結膜熱**については、定点当たり患者数が2.18となり先週の1.70よりさらに多くなり、大部分の保健所管内で増加傾向を示しています。

**ヘルパンギーナ**については、定点当たり患者数が2.61となり先週より増加し、特に、今津保健所管内の定点当たり患者数は8.50と多くなっています。また、八日市、彦根および長浜保健所管内の定点当たり患者数は急増し、それぞれ、1.80、2.25、1.00となっています。

**流行性耳下腺炎**については、定点当たり患者数は先週より増加し0.91となっており、特に、長浜保健所管内では3.20と多くなっています。

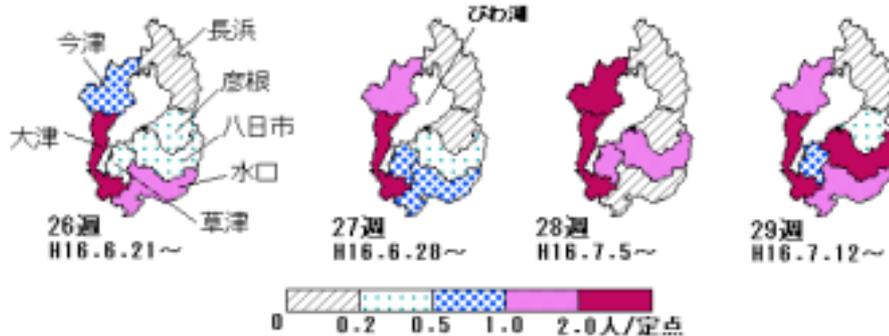
#### 定点当たり患者数:

感染症発生動向調査事業に係る報告のために、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、一週間を単位として一つの定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。

例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります。

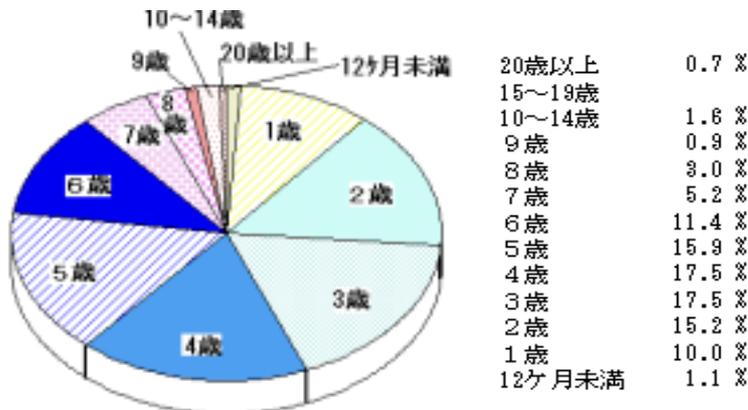
\* 疾患により定点数は異なります。

#### 咽頭結膜熱の週別発生状況(平成16年第26～29週、H16.6.21～H16.7.18)



咽頭結膜熱の第26～29週の発生状況を見ると、第28週は第26週と比較して大部分の保健所管内において定点当たり患者数が増加しています。特に、大津および八日市保健所管内において多くなっていますので感染予防に十分な注意を払うことが大事です。

#### 咽頭結膜熱の年齢別発生状況(平成16年第1～29週、H15.12.29～H16.7.18)

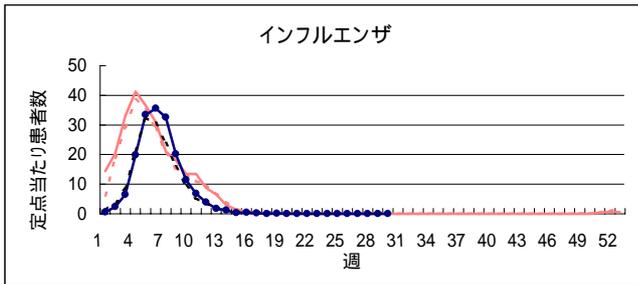


咽頭結膜熱の年齢別発生状況についてみると、5歳以下に多く発生し全体の77.2%を占めています。幼稚園児などの幼児に対してうがいや手洗いなどの基本的な衛生指導をすることが大事です。また、プールで感染することが多いためプールを利用する時には**十分な注意**が必要です。

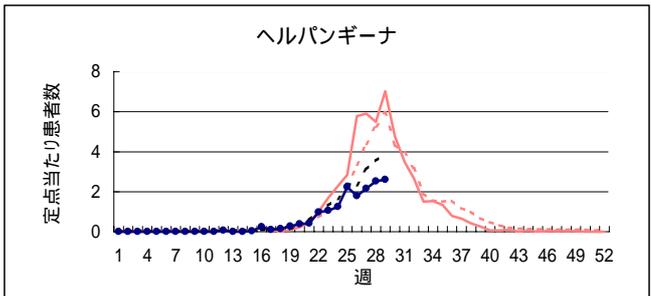
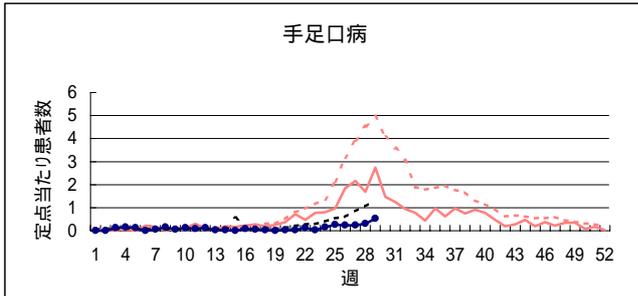
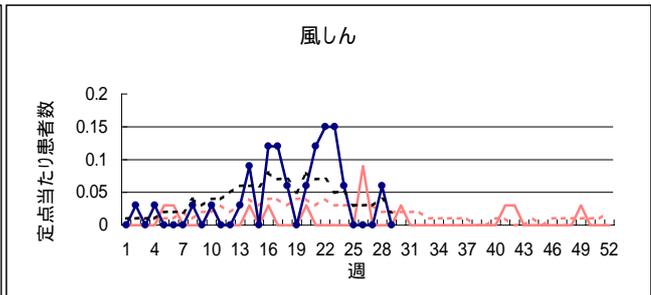
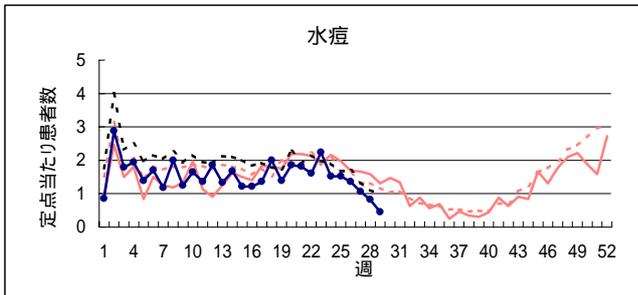
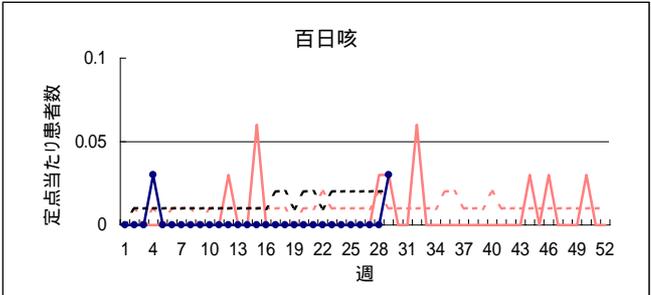
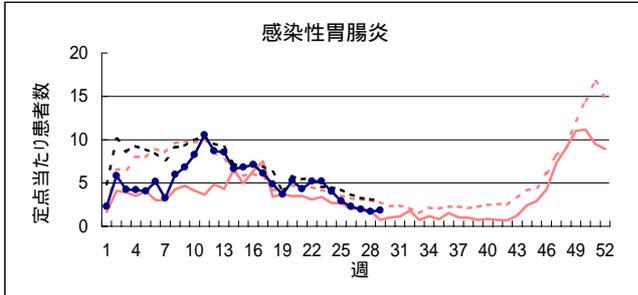
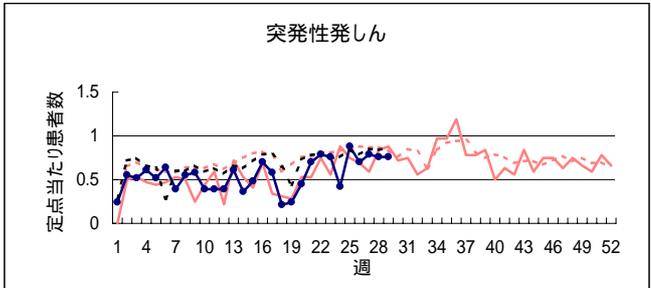
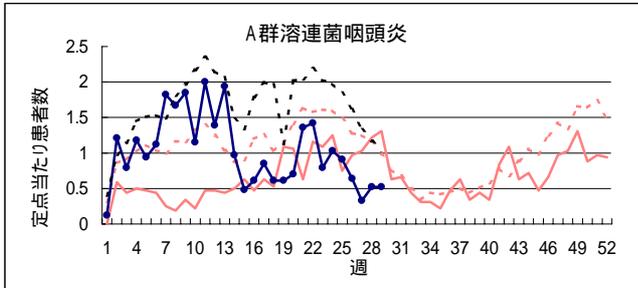
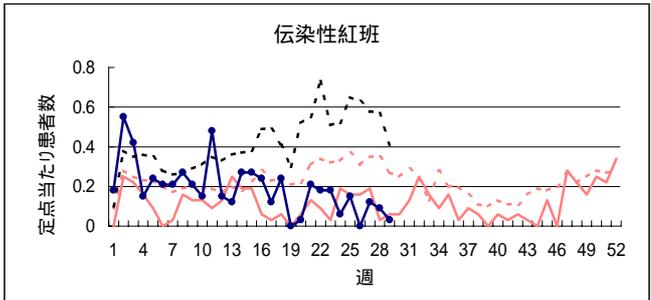
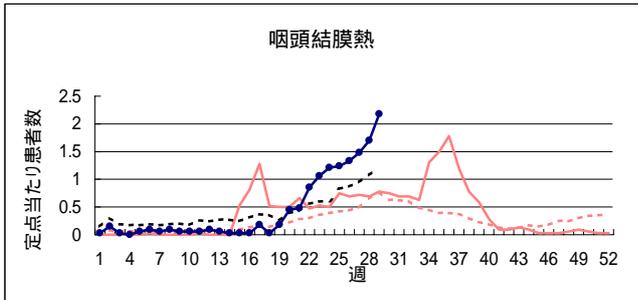
#### プールを利用する時の注意

- 1. シャワーを十分にする**  
プールに入る前後には手やおしりをよく洗い、咽頭結膜熱(プール熱)の原因となるウイルスや大腸菌などの細菌を洗い流すことが大事です。
- 2. 簡易プールなどの水をため置きしない**  
十分に塩素消毒水を循環しているプールではウイルスに感染しにくいですが、水をため置きしているプールや家庭用の簡易プールでは水を交換することが大事です。
- 3. タオルを共用しない**  
目や口を拭いて他の人にウイルスを広げる可能性があります。

# 疾病別定点当たり患者数(平成16年第1週～第29週、H15.12.29～H16.7.18)



H15 { 滋賀 (solid red line)  
      全国 (dotted red line)  
H16 { 滋賀 (solid blue line with dots)  
      全国 (dotted black line)



# 疾病別定点当たり患者数(平成16年第1週～第29週、H15.12.29～H16.7.18)

H15 〔 滋賀 ———— 全国 ..... 〕  
 H16 〔 滋賀 ●——● 全国 ..... 〕

